

① 在来種による緑化

【 志士達の匠の技 】

大分川ダム建設事業では、従来、焼却や廃棄していた木の根の部分を細かくチップにし、法面保護と緑化を行う材料の一部としてリサイクル活用しました。更に、法面緑化では、地域生態系や生物多様性に配慮するため、郷土に自生する植物の種子(地域性種苗)を、圃場(シードバンク)にて栽培して増殖・生産して在来種による緑化を実施しました。また、緑化資材の吹付種子についても、従来利用していた在来種「ススキ」の種子の中に中国産の「ヨシススキ」という別種の種子が混入していたため、「ススキ」を除いた種子配合に切り替えるなど、周辺自然植生のなじみを徹底的に追及しました。この取り組みは、外国産ススキ種子の販売が一時的に中止されるなど全国にも広がりました。周辺自然環境との調和を目指した環境・景観における心馳の技術です。

【 整備状況 】

【 取組状況 】



伐採された
木の根などの
リサイクル

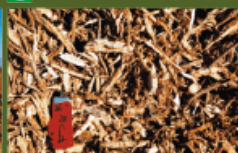
1 材料となる木の根



2 破砕機でチップ状に



3 チップになった木の根



4 チップの吹き付け状況



5 施工7ヶ月後



【 整備後 】



在来種子
生産の圃場
シードバンク

